

令和3年度 学校評価

【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

本校の教育目標は、『一人ひとりを大切に生きぬく力を育む』と設定している。

具体的な取組は、(1)自分と他人を大切にできる豊かな心を育てる。(2)共に学び、高め合い、確かな学力を身につけさせる。

(3)良い生活習慣を身につけさせ、心身共に健康な生徒を育てる。(4)家庭・地域から信頼を得て『共育』を行う。

学校評価の観点

| 1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む | | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校長) |
|--|---|---|---------|
| (1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び継つな がりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る | | 3.3 | 3 |
| | 成果 | 課題と改善策 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・校内で授業スタイルを統一し、目当ての提示や振り返り、グループワークを行うなど授業改善に努めた。 ・朝学習を4回実施ごとに小テストを行い、成績優秀者を掲示するなどし、やる気を引き出すと共に基礎学力の定着を図った。 ・数、英で少人数、TT授業により、生徒一人ひとりを大切に授業実践を心がけた。 ・特別支援委員会やケース会議で情報交換等を行い、職員会議等で全教職員の共通理解を図るなどの生徒理解を深化させ、効率的に支援に当たれるようにした。また、発達障害についての研修を行った。 ・スポーツテストの結果を活用することで、生徒の向上意識を高めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・多くの教師が授業工夫をするようになった。 ・1、2年生のあまっこステップアップ調査の結果などから、基礎学力の定着と生徒のやる気の向上が見られた。 ・朝学習テストにより、基礎学力の定着とやる気を喚起させることができた。 ・3年生女子のダンス発表会を1、2年生に見せることで意欲の向上や体育への関心を高めることができた。 ・特別支援学級が5学級に増えたこともあり、教員がユニバーサルデザインによる授業について学び考える機会が増えた。 ・教科体育の充実と体育的行事や部活への全教員の取組等しつかりとした協力体制が取れた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナのため、対話的な学びや行事など、制限される活動が多く、学習活動を充実させることが困難であった。 ・1時間の授業の中で多くの生徒をフォローできるように工夫をしていく。授業で対応しきれないところは補習等で埋めていくことがまだまだ必要である。 ・教員や学習支援員を配置して、数、英の少人数、TTでの授業において一人ひとりのやる気を呼び起こすようにしていく。 ・支援が必要な生徒が多くいるため、より効率的に多くの生徒の支援ができるように情報共有を今まで以上にいい個々に応じた対応を実践していく。 ・小中連携をより密にして進めていく。 ・教科体育、体育的行事、部活動を関連づけながら全教員で今後も取り組む。 | |

| 2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る | | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校長) |
|---|--|---|---------|
| (1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのか かわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める | | 3.3 | 3 |
| 取組 | 成果 | 課題と改善策 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・SCを講師とし、生徒と教員に対して、カウンセリングマインド研修を行った。ストレスを解消し、自己肯定感を向上できるように、リフレーミング等を行った。 ・普段の生徒とのふれあいに加え、年2回の教育相談を計画的に行い問題行動等の未然防止に取り組んだ。 ・いじめアンケートを実施し、教育相談と合わせて生徒理解に努めた。教員が生徒とのふれあう時間を増やし、早期対応を心がけた。 ・生徒指導委員会、不登校委員会等の会議の統合を行い週1回開催することにより生徒と関わる時間を増やし、学校全体の情報の共有、共通理解を図った。 ・不登校担当・SC・SSW・訪問指導員・はつらつ学級との連携を深めた。校内に別室を作ると共に、不登校気味の生徒保護者の管理職面談を行い改善に努めた。 ・高校の先生や地域人材等による講演会を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・SCやSSWと連携し、生徒の心に寄り添う指導を組織的に行うことができた。 ・別室を毎日開くことやSSWや関係機関と連携することで不登校の学習環境の確保や家庭の支援を行うことができた。 ・高校の先生や地域人材等による講演会を行い、生徒の将来について考える契機とすることができた。 ・教育相談等、生徒と丁寧にかかわることで、いじめの未然防止、早期発見を行うことができた。 ・SSWと連携し、不登校生や家庭に困難を抱える生徒の進路指導を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談アンケートといじめアンケートを実施して、定期的な教育相談に加えいつでも相談できる体制を作る。 ・生徒指導委員会と不登校委員会に生徒支援の立場の教員も入れて情報共有しながら生徒の成長を支援していく。 ・関係機関や教員以外の力(SC/SSW/福祉等々)も借りながら生徒の成長を支援していく。 ・学校全体で別室指導の取り組みを行い、登校しやすい環境を整える。 ・卒業後の進路について早くから(1・2年の時から)考えられるように計画的に進めていく。 | |

| 3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む | | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校園長) |
|--|--|---|----------|
| (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める | | 3.1 | 3 |
| 取組 | 成果 | 課題と改善策 | |
| 研究推進委員会、ICT推進委員会を中心に教職員の資質向上を図った。 ・パソコン内でのデータ管理をして職員で共有することで業務改善を進めた。 ・個別面談を行うことで教職員の意識改革を図った。学校経営に参画させたり、重要な分掌をになわせることで資質向上を行った。 ・教育活動の公開や学級、学年、学校だよりの発行、PTAメール配信を活発にし、保護者・地域との連携を行った。 ・今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、地域行事が少なかったが、地域とともに小田北中生を育てるスタンスで、地域との連携を図った。 | ・研究推進委やICT推進委員会での研修等計画を立案し、目的を示すことで教員の意識が高まった。 ・教育活動の公開や学級、学年、学校だよりの発行、PTAメール配信を活発にし、より保護者・地域との連携ができた。 ・今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため、地域行事が少なかったが、HPの発信や体育大会などの行事により、保護者との連携を図った。 | ・今後も研究推進委員会を中心にして、指導力向上を目指して学校の教育水準を上げていく。 ・PC内でのデータ管理を徹底し、業務改善に努めていく。PC内に教育情報を示し、向上意欲を高めていく。 ・今後も個人面談を通じて管理職と教職員の力を強めてチーム力をあげていく。 ・ホームページやたよりを通じて学校での教育活動等情報発信をすることで学校に対する協力者(地域や保護者)を増やしていく。 ・地域行事へも積極的に参加し、小田北中の生徒を地域とともに教育する”共育”が浸透するようにしていく。 | |

| 4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る | | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校園長) |
|--|--|--|----------|
| (1) 安全取組の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る | | 3.3 | 3 |
| 取組 | 成果 | 課題と改善策 | |
| ・登校、下校指導をすることで、生徒の登校、下校時の安全を確保した。また、地域保護者と連携することで生徒の意識を高めていった。 ・校内の整理整頓を意識させることで、学校施設を大切に使用する意識が高まった。 ・生徒が理解し易いよう、朝礼や集会、学活での安全指導を行った。 ・年2回の防災訓練実施の際、事前事後指導を充実することや関係機関との連携を深めた。 ・保健給食委員会を中心に感染症予防活動に取り組んだ。 | ・月末の安全点検実施により、危険箇所の把握を確実にすることにより事故等の減少につながった。 ・トイレが改修されたこともあり、生徒にとっては学校施設をより大切にすることを意識が高まった。掃除など、感謝の気持ちを込めて丁寧にやっている。 ・保健給食委員会による換気の呼びかけや川柳づくりなど、感染症予防対策を行えた。 | ・登校、下校指導は今後も続けていき、教員の力と地域の力で生徒の安全確保を進めていく。 ・施設の老朽化が激しい中であるが、毎月の安全点検を今後も続けて生徒たちが使っていく施設の安全を図っていく。 ・年間2回の防災訓練で防災意識の高揚を続けていく。 | |

| 教育目標 | | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校園長) |
|--|--|--|----------|
| (1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実 | | 3 | 3 |
| 取組 | 成果 | 課題と改善策 | |
| ・朝礼等の機会や校内の掲示板を利用して、職員や生徒に具体的目標の意識付けを図った。 ・”一人ひとりを大切に、生き抜く力を育む”のために、生活習慣の徹底と学力向上を目指し全教員でしっかり取り組んだ。 ・目標達成するために、振り返りと改善が必要であることを生徒にも伝え、行事ごとの反省を基に次年度計画までの対応を進める意識をさせた。 ・学習に於いても基礎の積み重ねを大切に、テストごとの振りかえりを行いつまづきを解消させるよう指導していった。 | ・ホームページ、学校、学年たよりや保護者会など機会あるごとに教育目標、目指す生徒像を示し、生徒保護者の理解が少しずつ広がってきた。 ・教職員や生徒がPDCAサイクルを意識して、学習や行事に取り組むことができた。 | ・年度当初の職員間での確認をしっかりと行う。 ・朝礼や掲示板を利用して具体的な目標を意識づけていく。 ・生活習慣の徹底と学力向上(授業工夫)と心の教育の3本柱をしっかりと取り組んでいく。 ・教員の指導力向上のため校内の研修会の充実と校外での研修会での学びを深めていく。 ・1時間の授業で対応しきれない生徒の補習を各教科、全職員の協力のもとで進めていく。 | |

| 研究テーマ | | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校園長) |
|--|--|--|----------|
| (1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実 | | 3.2 | 3 |
| 取組 | 成果 | 課題と改善策 | |
| ・研究推進委員会を中心に、授業改善や学力向上の方策を検討し、学校として、授業の最初に目標を提示することを統一して行った。 ・小学校と共に授業の展開(目当ての提示→一人学び→ペア・グループワーク→振り返り)を決めて行い、分かりやすい授業や指導法等、工夫した授業実践を行った。 ・来年度からの新学習指導要領の完全実施を踏まえ、講師を招聘し、授業と評価の一体化に向けて授業の実践を行った。 ・朝学習を4回実施ごとに小テストを行い、成績優秀者を掲示するなどし、やる気を引き出すと共に基礎学力の定着を図った。 | ・教員が各授業において、ゴールを意識しての目当ての提示と振り返りの工夫をするようになった。 ・学力調査やアンケートの分析から課題を見つけ、授業改善につなげるようになった。 ・ICTを効果的に活用して、グループワークや振り返りを行うようになった。 ・朝学習や授業での確認問題などを使って、基礎学力の定着を行えた。 | ・各教員の工夫を出し合い、振り返りの方法など、「主体的・対話的で深い学び」を行えるよう、検討する。 ・基礎学力の定着には小中連携が不可欠であるので小学校との連携をこれまで以上に進めていく。 ・今後も公開授業や授業研究を進めて、教員の指導力向上に努める。 ・学力調査やアンケート等の分析をしっかりと行い、より効率的な指導ができるよう個々に応じた指導を進めていく。 ・ICTを利用した効果的な授業展開を研究する。 | |